

二	事業の概要
---	-------

(1) 2011 年度事業報告

「募集力」

(1) 入試制度

- ・当年度の結果 志願者数 2,370 名（前年度 2,912 名）。
- ・入学者 840 名（前年度 897 名）。

(2) 学生募集

- ・東北 3 県（岩手、宮城、福島）の特別指定校 14 校を訪問、3 名が入学。
- ・オープンキャンパス来場者数 1,895 名（前年度比 98.7%、目標達成率 99.7%）。
- ・大学ホームページ内に入試課スタッフブログを開設、情報発信ツールとして更新を継続。（当年度合計 135 回更新）。

(3) 一般広報活動

- ・新聞雑誌掲載記事数 322 件（前年度比 105.9%）。
- ・その他媒体掲載件数 162 件（前年度比 101.9%）。
- ・大学ブランディング構築に向けた取組みとして、「流科大は可能性大」をキーワードに広告プロモーションを実施。
- ・海外向け広報としての大学紹介 DVD、パンフレット（いずれも 3ヶ国語版）が 3 月に完成。

「教育力」

(1) 学部改組・新カリキュラム導入への対応

- ・ネイティブ教員を採用し、スピーキング、リスニングの能力向上を目的とした英語会話教育を実施。
- ・3 学部生混合による基礎演習 A クラスを編成し、統一シラバス、共通副教材・資料集による授業を実施。
- ・コース教育、学部教育を補完する正課外活動として TERAKOYA3（公務員講座）を新たにスタートし、総合政策学部生 40 名が受講。
- ・当年度の学部改組に伴う「教育課程等の概要」等について、履行状況報告書を作成し、5 月に文部科学省へ提出。

(2) 責任ある教育への取組み

- ・改修した階段教室（1111 教室）等を活用し、対話型授業（RyukaWay）を複数教員で推進。

(3) 個別施策

- ・AO 入試・指定校推薦入試・公募推薦入試での入学予定者対象の入学前教育を 2 月～3 月にかけて実施（計 436 名参加）。
- ・社会連携プログラムとして「大阪ガス杯（学園都市ゼミ対抗イベント）」「大学ゼミ対抗神戸の魅力発見企画」「日産自動車 LOB 新企画提案」「グリコカレー企画」「中小企業の魅力発信レポート」「KOBE スーベニア企画」「稲美町活性化企画」「兵庫まちあるき企画」（順不同）などを実施。
- ・6 月にもものづくりの新しいアプローチを体験・実践する「デザイン工房」を開設。

- (4) 課外活動の推進による大学の活性化
- ・クラブ加入者数 1,444 名（前年度比 99.0%、目標達成率 96.3%）。
 - ・クラブ加入率 37.5%（目標達成率 101.4%）。
 - ・新入生（2011 年度入学生）のクラブ加入率 45.6%、加入者数 434 名。
 - ・クラブ・サークル加入率 60.2%、加入者数 2,320 名（目標達成率 100.3%）。
 - ・2 月に女子クラブ専用クラブハウス（2 階建て 10 部屋）が完成。
- (5) ルール・マナー遵守
- ・受動喫煙に関する注意喚起等を実施。
 - ・神戸市消防局による救命救急講習会を実施。学生・教職員の参加者合計 153 名（前年度 60 名、前年度比 255.0%）。
- (6) 退学・除籍対策
- ・4 月の下宿生オリエンテーションにおいて、警察による「防犯・護身術セミナー」に加え、学生生活（健康管理等）の諸注意を実施。
 - ・“open space R”（大学生活について相談できる場）の学生スタッフ協力によるメンタルケアを実施。
- (7) 地域交流・ボランティア促進
- ・ボランティア参加者 526 名（前年度比 117.4%、目標達成率 116.9%）
東日本大震災チャリティイベント、須磨海岸クリーン作戦、須磨楽海海岸文化祭、ともしびボランティア等に参加。
 - ・地域イベント参加件数 61 件（前年度比 148.8%、目標達成率 152.5%）。
 - ・東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県南三陸町において、臨時災害ミニ FM 局「南三陸災害 FM」を開設した RYUKA 被災地復興サポートチーム（学生 6 名で編成）が、中央共同募金会から「赤い羽根募金 災害ボランティア・市民活動」に認定され、事業助成を受けた。
- (8) 学生チャレンジプロジェクトの活性化
- ・応募数 10 チーム（前年度 17 チーム）。
 - ・優秀企画を学外へ情報発信し、情報学部生が「兵庫県若人の賞」、RYUKA 被災地復興サポートチームが“ぼうさい甲子園（1・17 防災未来賞）”において、東日本大震災支援特別賞を受賞。
- (9) 学園祭の活性化（学園祭の実行を通じて、人間的成長を目指す）
- ・大学全体で学園祭を運営する組織体制を取り入れ、4 部会（体育会、文化会、学生会、学園祭実行委員会）を中心とした組織立った学園祭運営を実施。
- (10) 学内表彰制度の充実
- ・学内表彰制度への申請件数 43 件（前年度 25 件）。
- (11) 有朋会との協働（卒業生と在学生の結束強化）
- ・ホームカミングデーを年 3 回（8 月、9 月、10 月）実施（参加者計 370 名）。
 - ・実学サロン（毎回ゲストを招いてテーマに沿った話題を提供してもらい、全員のディスカッションを通じて互いに学び合う場）を 6 回実施、参加者 179 名（卒業生 130 名、在学生 49 名）。
 - ・活動写真館「RYUKA PHOTO」を有朋会ホームページに設置。

- (12) 学生の交流活動
- ・留学生と日本人学生との交流施策の実施として、「ふるさと紹介」2回実施（参加者72名）、「ポットラックパーティー」2回実施（参加者60名）、「関西弁講座」2回実施（参加者76名）、その他交流イベント実施（参加者265名）。
- (13) 資格講座開講
- ・受講者698名（前年度比103.4%、目標達成率99.0%）。
 - ・収益4,570,100円（前年度比82.8%、目標達成率81.0%）。
- (14) 中内功記念館の活性化（中内功の流通革命の精神やその志及び建学の想いを出来るだけ多くの学生や一般の方に伝える）
- ・1,250本の中内功に関するビデオテープのDVD化を完了。
 - ・記念館担当説明者用のマニュアルを完成させ、活用した。
- (15) 保護者と大学の友好関係の構築
- ・教育後援会会報誌5回発行、情報誌2回発行、その他案内（バスツアー、流通シンポジウム等）2回発行し、大学の近況報告を実施。
 - ・保護者と大学の交流施策として6月に「ひょうごウォッチング（北播磨）」、10月に「バスツアー（和歌山県）」を実施（父母参加者計58名）。

「研究力」

- (1) 流通科学研究所の更なる活性化
- ・観光ビジネスモデル研究会9回、まちづくり・流通研究会5回をそれぞれ開催。
 - ・新たな研究会の創設として次の3件が採択され、活動。
 - 「アジア物流研究会（「アジア物流」日・タイ共同研究プロジェクト）」。
 - 「持続的・地域社会構築に向けた革新的地域政策に関する研究会」。
 - 「イベント・マーケティング研究会」。
- (2) 研究支援
- ・科学研究費補助金19件獲得（前年度比126.7%、目標達成率117.6%）。
 - ・受託研究等外部資金11件獲得（前年度比157.1%、目標達成率137.5%）。
- (3) 海外との学術交流活動
- ・SARD第9回ワークショップの展開として、11月25日～27日に中国人民大学（北京）にて実施。テーマは“Managing Retailing Growth: Systems, Technology and Innovation”、8カ国（前年度11カ国）から70名が参加（前年度50名）、14本の論文が発表された（前年度20本）。
 - ・南京大学大学外語部（中国）、四川外語学院（中国）、ESCブルターニュブレスト（フランス）と新規に提携し、合計提携大学20校。

台湾	高雄第一科技大学、南台科技大学、中国科技大学
韓国	東亜大学校、中央大学校、東明大学校
中国	南開大学、東北財経大学、大連海事大学、復旦大学、蘇州大学応用技術学院 南京大学大学外語部 (4月)、四川外語学院 (10月)
ベトナム	貿易大学
タイ	カセサート大学
オーストラリア	サンシャインコースト大学
ニュージーランド	ワイカト大学パスウェイズカレッジ
アメリカ	ポートランド州立大学
フィンランド	バーサ大学
フランス	ESC ブルターニュプレスト (4月)

※太字は 2011 年度新規提携校

(4) 海外とのビジネス交流活動

- ・10月19日～23日に提携大学であるカセサート大学からの研修団受入れを実施。教員、大学院生合わせて30名が参加し、講義、工場、市場、物流センター等の見学を実施。

(5) 流通資料館の深化

- ・流通に関わる企業・団体からの社史・団体史等26冊を加えて、計271冊の資料を保管。

「就職力」

(1) 就職率目標 75% (前年度比 5%以上アップを目指す)

- ・就職率 74.5%、就職内定率 96.7% (前年度：就職率 73.1%、就職内定率 91.3%)。

(2) 就職支援に関する重点施策

- ・学校推薦制度でのエントリー：企業 28 社、内定者 46 名 (前年度：企業 43 社、内定者 50 名)
- ・教職員による面接練習 311 名、企業人事担当者による面接練習 38 名、グループディスカッション 84 名、グループワーク練習 74 名、3 年生対象の個別面談 642 名をそれぞれ実施。
- ・大阪オフィスにキャリアカウンセラーを 11 月より配置し、面接練習を実施。
- ・有朋会と連携し OB による就職相談会を実施。22 名 (前年度 28 名) の卒業生が来校。90 名参加。
- ・就職支援システムをリニューアル。Web 上での求人票公開、面接練習・学内企業説明会等の就職支援行事の Web 申込を可能とした。
- ・インターンシップへの参加学生 266 名、派遣企業数 127 社 (前年度：参加学生 338 名、派遣企業数 131 社)。
- ・留学生対象就職ガイダンスについて、6 月～10 月にかけて計 4 回実施 (日本の就職事情、企業・業界理解、ビジネス日本語講座、履歴書・エントリーシートの書き方等)。
- ・有朋会求職者登録を活用し、登録件数 42 名、うち 4 名が再就職 (前年度登録件数 23 名、うち 1 名が再就職)。

「経営力」

- (1) 財務構造の磐石化
 - ・ 3大経費（人件費、教育研究経費、管理経費）合計では予算内運用。
 - ・ 9月～12月の期間、監査室による内部監査を実施。
 - ・ 国債、仕組み預金を中心としたローリスク運用を継続。
 - ・ RYUKA 未来基金合計 6,758,000 円（目標：100,000,000 円）。
- (2) 学園組織
 - ・ 10月に六本木ヒルズにて、「リテール科学研究所設立記念シンポジウム」を開催（参加者 320名）。
 - ・ 12月、3月に本学東京オフィスにて「リテール科学研究所意見交換会」を開催。流通関係協会 14名、関係省庁 4名が出席。
- (3) オープンカレッジ・施設使用・受託研修の拡大
 - ・ オープンカレッジ受講者 967名（前年度比 99.8%、目標達成率 99.7%）。
 - ・ オープンカレッジ収益 3,929,885 円（前年度比 141.5%、目標達成率 141.5%）。
 - ・ 施設利用収益 20,182,500 円（目標達成率 96.1%）。
 - ・ 受託研修収益 845,000 円（目標達成率 112.2%）。
- (4) 個別施策
 - ・ RYUKA プラン 21 を見直し、「中内学園中長期計画（N-PLAN）」を作成。1月の理事会・評議員会において審議承認。
 - ・ 9月に本学 RYUKA HALL にて「第五回流通シンポジウム（テーマ「震災復興と観光のカー未来に求められる人材を考える」）」を開催（参加者 303名）。
 - ・ コンプライアンス意識向上に関する取組みとして、学則や規則規程集等で明文化されたルールと運用の一致を徹底。
 - ・ 第一回危機管理委員会を2月に開催し、危機管理マニュアルの発効について審議承認。
 - ・ 職場の環境改善に向けた衛生委員会を設置し、4月より毎月1回開催（議題：クールビズ・節電対策、喫煙対策等）。